

平成二十一年度  
修士論文・卒業論文題目

大学院文学研究科

〈歴史学専攻〉

金丸 智洋 幕末佐賀藩の科学技術研究史序論

論

川久保美紗 有田地方の陶磁器生産と森林伐採 — 佐賀藩における環境保護対策 —

対策 —

中家 洋介 戦後犯罪史の研究 — 大分県を中心に —

榎本まゆみ 球戯の儀礼性 — 先スペイン期マヤ社会における王権との関係について —

〈文化財学専攻〉

朝川 華奈 中世豊前・豊後地方の鋳物師と金属加工技術 — 梵鐘と経筒を中心として —

石川 優生 蛍光X線分析法を用いた歴史資料の顔料調査 — 宇佐神宮の神輿障子絵を中心として —

伊藤 広宣 湿度状況からみた装飾古墳の保存と活用について — 大分県

日田市所在ガランドヤ古墳群における調査から —

太田真理子 黒髪式土器文化の形成と展開

櫻村 拓男 椿市麿寺と古代京都郡

川俣 唱子 古代官道と地方道 — 豊後国日田・玖珠郡を中心として —

久保田陽香 古代速見郡の形成と展開 — 鬼ノ岩屋古墳の歴史的意義 —

元 喜載 大分県立歴史博物館蔵「神輿障子絵」徳治本一殿神輿「堤婆達多品」の模写制作

稗田 貞臣 石造文化財の劣化に関する保存科学的調査 — 県指定史跡臼塚出土舟形石棺を中心として —

山口佐和子 中世における殺生の方便 — 阿蘇下野狩日記を中心に —

山村 健生 出土鉄製品の脱塩処理法の改良研究 — セスキカーボネイト水溶液脱塩法の改善 —

横尾 裕一 大分平野における弥生集落の動態

史学科

〈日本史専攻〉

相浦 基 黎明期の日本軍

阿南 洋平 伊能忠敬の九州測量  
伊ヶ崎稜次 上杉謙信と領国支配の形成について

池田 瑞穂 教育史における福沢諭吉 — 「学問のすすめ」を中心に —

池田弥奈美 八条院障子内親王 — 存在とそ

の影響力 —

伊藤 歩 村上水軍についての考察

井場 友樹 岡山県の高校野球史

大田川真志 後白河法皇と九条兼実の関係  
大田黒裕也 関ヶ原の戦い

大村 裕二 明智光秀と本能寺の変について  
押谷 康之 本能寺の変の真相

梶原 治 日田県時代の松方正義

香月 智子 戦前における女性のための高等教育の特質 — 津田梅子を中心として —

金澤 由佳 京都守護職が始まる悲劇の要因  
亀崎 誠 伊藤傳右衛門と筑豊炭田

河野 大徳 関ヶ原の戦いについて — もし西軍が勝っていたら、今の日本はどうなっていたか —

河野 涼 柔道史の研究

北林太次郎 城郭と城下町の歴史

北原 慎也 北畠親房の思想

- |       |                                     |       |                              |       |                              |
|-------|-------------------------------------|-------|------------------------------|-------|------------------------------|
| 北村 達也 | 阪神甲子園球場の研究                          | 佐藤 優作 | 鎌倉幕府成立しにおける源義経の位置            | 恒廣 準一 | 東条英機と日米外交として―                |
| 木下 和博 | 戦国大名尼子氏の領国経営について                    | 讚井 孝宜 | 戦国大名伊達政宗について                 | 問 伸一郎 | 江戸初期の長州藩の財政改革について            |
| 木村 幸道 | 真の大衆娯楽とは何か ―パチンコ・スロットを通じての庶民の娯楽の推移― | 重松 希  | 足利義持とその時代                    | 富川進太郎 | 江戸幕府財政について ―文久期を中心に―         |
| 吉良 貴徳 | 日蓮の予言と法難                            | 篠崎 将貴 | 日本の諜報機関                      | 富田 勝仁 | 江戸後期における天皇の位置                |
| 工藤 寛之 | 真田幸村 ―名将と言われた理由                     | 島本 紀枝 | 采女論                          | 富森 翔子 | 尾形光琳が遺したものの                  |
| 栗田佳史朗 | 新撰組の発足について                          | 杉本 千里 | 島原の乱について                     | 豊島 寛彦 | 伊予小松藩会所日記から見える地方小松藩の日常       |
| 後藤健太郎 | 石原ビジョンと満州 ―戦後への連続性と問題点―             | 須藤 端  | 大友氏の城郭政策と領国防衛について            | 豊福 倫敦 | 鎌倉時代における法と刑罰 ―鎌倉幕府法にみる身分と刑罰― |
| 後藤 公輔 | 宮崎県の昭和三〇年代四〇年代の新婚旅行ブームの研究           | 瀬戸 孝弘 | 地政学的観点で見る昭和日本の国家戦略           | 永石 圭一 | 幕末の藩校教育 ―佐賀藩を中心に―            |
| 後藤 純二 | 坂本竜馬と海援隊 ―薩長同盟と中島信行を中心に―            | 高木 翔太 | 土佐の自由民権運動                    | 長田千恵美 | 治承・寿永の内乱における熊野別当、湛増の動向       |
| 後藤 俊徳 | 別府の温泉の歴史と効能 ―その将来性―                 | 高野 智成 | 太平洋戦争時の民衆生活 福岡県を事例に          | 中村 真弓 | 薩長同盟成立日における再検討               |
| 薦田 芳明 | 大艦巨砲主義の象徴「戦艦大和」                     | 高畑 達彦 | 千利休について                      | 中村 裕樹 | 林桜園から神風連へ ―神風連の変を中心に―        |
| 佐伯 優輔 | 坂本竜馬の伝説について                         | 高吉 健至 | 第二次世界大戦における特攻隊               | 西田雄一郎 | 大坂の夏の陣について                   |
| 佐々木睦弥 | 尾形光琳と国宝紅白梅図屏風に                      | 竹川 雄大 | 緒方三郎惟栄の研究                    | 西野 貴士 | 日本の三代城郭について                  |
|       | ―司馬史観を交えて―                          | 竹森 絢子 | 石炭の発展と炭鉱社会                   | 西野 剛  | 織田信長が行った諸制度について              |
|       | ついて                                 | 田中 謙吾 | 太平洋戦争下における配給制と大分県のように        | 西本 行克 | 関門海峡 ―十五年戦争中の役割―             |
| 佐藤 晃彦 | 中世の民衆と戦争                            | 谷口 雄一 | 大正期大分県における軽便鉄道事業の実態 ―国東鉄道を事例 | 野崎 祐輔 | 特攻の真実                        |
| 佐藤 慶一 | 幕末の小倉藩                              |       |                              |       |                              |

野尻真里子 斯波氏の誕生と発展 ―名族としての斯波氏―

橋本 昂征 黒田如水について

橋本 卓也 関ヶ原の戦い

長谷雄二久 小河一敏の岡藩に与えた影響

(経歴から見る)

榎柴あさみ 大奥

姫野 翔伍 鎌倉武士と中世社会の情勢

藤林 徹八 幕末のクーデター―高杉晋作と奇兵隊

藤本 博樹 源義経についての考察

二場千恵子 足利義教 ―その生涯と政策―

淵田 晶子 擬洋風建築と文明開化

船石 侑甫 徳川三代と初期政治統治について

帆北 智美 女性を主体とする「家族」の在り方 ―近代においての変遷推移―

移―

増田 一樹 大坂城、冬の陣・夏の陣について

丸尾 友香 伊勢神宮の成立 ―その起源である天照大神と天武天皇―

箕原 雅彦 中世瀬戸内海における海賊村上氏の活動

三宅 久美 鉄砲伝来と伝来以降の火器について

いて

矢野 祐大 日本の城 三大城郭について

山崎 丈爾 日中戦争からみた日本の外交

山崎 貴司 戦国大名毛利元就の支配体制

山城 絢己 戦後の沖繩から返還まで

山元 彬裕 幕末における薩摩の動乱と尊王攘夷思想について

横山麻衣花 平氏政権の形成経過について

吉田 伸宏 相撲の歴史

吉屋 美和 織田信長の虚像と実像の検証

若杉 拓郎 キリシタン大名 大友義鎮(宗麟)について

麟)について

〈東洋史専攻〉

岩崎 由樹 マオリと入植者の関係 ―タスマニア先住民との比較―

遠藤なつ美 三国劉氏政権の形成と劉備集団

金光 真帆 三国・孫氏政権と家臣集団について

いて

栗山 祐貴 アンコール・ワットの歴史的意義

江田 侑斗 曹操の家臣団について

瀧井 直子 インドネシア・マレー世界のイスラーム化

鶴田 千晶 英領時のスリランカにおけるティープランテーションの役割

〈西洋史専攻〉

上田尾佑輝 ロシア革命―レーニンの革命発掘から見るトロイア戦争

岡山 智彦 百年戦争時代のフランス城塞都市

後藤 将匡 ドイツ中世の職人と都市文化

堺 俊祐 ヨーロッパの人びとの技術と生活

篠崎 壮宏 マリー・アントワネットとフランス革命

中村 美幸 中世都市ケルン

西村 一志 ドイツ・ハンザと交易

野崎由美子 カール大帝とイスラーム

野添 章宏 ナチスとヒトラーと民衆

馬場 務 ヴェネツィアの都市文化

濱田 由美 戦前・戦後のドイツにおけるユダヤ人

古川 善敬 第二次大戦からヨーロッパ共同体へ ―ジャン・モネの活動から見て―

古澤 広大 第2次世界大戦期のイギリス海軍

堀野 優 歴史の中のキリスト教 ―キリスト教の光と影―

横尾 悠生 1920年代アメリカ社会史

〈世界文化史専攻〉

麻生 明彦 モアイの謎に迫る

井上 真 クレオパトラとカエサルについて

江島 彩 魔女迫害と魔女裁判

大久保彰浩 イタリア・ルネサンス期の民衆文化について

文化について

岡崎 真澄 ギリシア建築史 — 時代への影響 —

響 —

木下 松美 テオテイワカンとマヤ地域との関係について — コパンを事例に —

係について — コパンを事例に —

獅々戸仁志 古典期マヤ低地南部地域の崩壊 — ドス・ピラスとアグアテカを中心 —

中心に —

ナチスの政策 — ナチスが目指したユートピアとは —

中江 真実 ナチスの政策 — ナチスが目指したユートピアとは —

戦後日本経済の復興と発展

平川菜央子 戦後日本経済の復興と発展 — 政府の果たした役割

キリスト教異端とされた「グ

平田かすみ キリスト教異端とされた「グ

ノーシス主義」の歴史と実体

本房希三佳 ポンベイ遺跡から見る古代ロー

マ人の宗教観

渡辺 真弓 メソポタミア地域におけるジグ

ラットの存在意義

文化財学科

〈考古学・埋蔵文化財専修〉

青木翔太郎 別府湾岸における弥生土器の展

開

安藤祐太郎 吉野ヶ里遺跡の保存と整備につ

いて

李 旨恩 韓国の保存科学の歴史と修復事

例について

石井佐和子 長崎県原城跡から出土した鉛玉

の産地推定

今村 杏奈 地域振興としての世界遺産

— 沖ノ島を事例に —

任 丞延 古代ガラスの化学組成

榎本 美里 糖アルコール含浸法を用いての

水浸出土木材の保存処理

王 永靈 中国商時代漢中市洋県と城固県

から出土した青銅器について

大貝 剛士 縄文時代におけるヒスイの玉類

と磨製石斧の生産と流通

甲斐 直大 福岡平野における青銅器製造と

その背景について

加世田 尊 古代律令国家と薩摩・大隅地方

亀田 修平 大分香りの博物館 I・P・M 調査

北園 哲也 古代大隈の国設立と隼人

黒木 星佳 出土遺物としての陶硯から見

る、8—9世紀の豊後国内における文字の伝播

伊予における中世社会と中世城郭

郭

久留米地域の古墳群について

伝統的建造物群保存地区制度と

文化的景観制度 — 日田市豆田

町・うきは市吉井町と日田市小

鹿田焼の里を事例に —

正倉院文書に見る古代家族制度

日野江城跡出土の瓦

弥生時代における九州山間部の

稲作の様相 — 植物珪酸体分析

を利用した研究 —

絵画銅鐸に見る弥生人と自然と

の関係について

大分香りの博物館収蔵庫にお

ける温湿度調査について

石器から見る本州西端部の旧石

器時代

五世紀代における初期ヤマト政

権と地方豪族の動向 — 雄略朝

を中心 —

豊後国玖珠郡の中世城郭につ

ての考察

- 宮本 翔吾 大野川流域における弥生時代の生活様式
- 村岡 瑞江 国東半島からみる北部九州の経塚造営 — 東光寺・妙楽寺経塚遺跡を例にして —
- 村上 聖子 猫追1号墳と豊前天台寺 — 古墳時代 — 白鳳期の田川市 —
- 矢羽田 洸 豆田に見る歴史の町並み保存の活用と変遷
- 山下 裕樹 貝塚からみた南九州における縄文時代
- 楊 瑾 唐招提寺と鑑真
- 吉田 裕司 遠賀川とその周辺地域の貝塚と古環境
- 〔環境歴史学・民俗学専修〕
- 安部 友香 日本人の性信仰 — 祭りと儀礼から見る庶民文化 —
- 磯金 佑味 石に彫られた地蔵と十王 — 中世大分の地藏信仰の研究 —
- 市原 正平 里海を支えるシステムに関する歴史的考察 — 魚付林とは何であるか —
- 稲田 早苗 神事とあそびについての考察 — 長崎における事例研究 —
- 岩白 華奈 生と死と境界 — 昔と今における死の考察 —
- 岩鶴 円 人形を使ったのろい — 世界各地の呪詛と日本 —
- 于 震 日本の巫女 — 古代から現代に至る巫女の神憑りの伝統 —
- 内野 嗣昭 温泉と神仏 — 信仰と温泉街の発展 —
- 王 超 地域観光マーケティングに関する研究 — 特に別府市における観光イベントとの関係を中心として —
- 王 麗亜 古代服飾文化の伝播 — 中国から日本へ —
- 狩野 晃寛 別大電車の歴史 — 実際に支えた人達への聞き取り調査から見たい一面 —
- 川辺 泰斗 結界 — 結ばれた結界 —
- 斬 躍文 風水説の四神について
- 草場 結貴 現代における方言周圏論 — 変化する方言 —
- 久保 朋士 鬼と伝説 — まつろわぬ者跋扈する情念と妄想 —
- 清水 隆司 豊前若戸神楽 — 山内神楽と現状を中心にして —
- 朱 峰 チベットの暮らし
- 周 雨 アジア婚姻制度の研究
- 孫 祥偉 中国の焼酎文化史 — 焼酎を心として中国の酒 —
- 高見 亮太 長崎県の精霊流し — 成り立ちと現状、そして文化比較 —
- 田口 敬人 粥だめし — 日田の粥だめしと農業を中心とした考察 —
- 田添 愛美 近世の長崎観 — 他国の者から見た長崎 —
- 谷崎 善行 琵琶法師とモノ語り — 文化遺産としての琵琶語りの歴史と未来 —
- 趙 乾坤 中国創世神話
- 鳥越 未悠 津久見のくらしと自然 — 歴史から未来を考える —
- 中西麻由美 人は死んだらどこにいくのか — ささまざまな視点から日本人の「死」(他界観)を考える —
- 長見 享世 近世における国産品の研究 — 防長地域の事例について —
- 八田 大佑 落語の世界からみる江戸庶民の暮らし・生活 — 落語が現代に生きる理由を探る —
- 平山 康晴 福岡県の河童 — 福岡県を中心

として―

三間なつみ 山口県の郷土料理 ― 伝統から

現代への変化―

宮川紗佑里 民話の中の鳥 ― 人に関わる鳥  
たち―

明賀 裕子 消えた草戸千軒 ― 城下町建設  
からみえる消滅の謎―

李 仁穎 山東省現代新規大学卒業者の就  
職困難面の分析と未来就職実態

劉 恩芹 滝の環境歴史学 ― 大野川流域  
の滝を中心に―